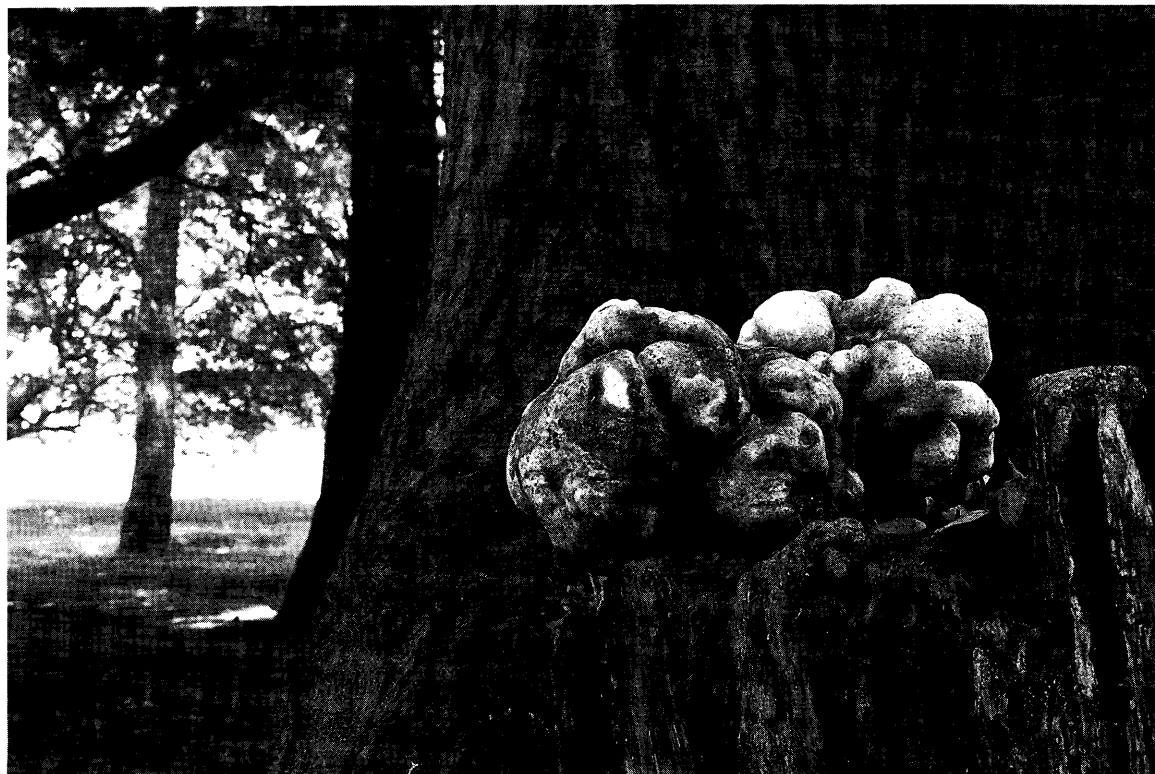


関西菌類談話会会報

1999年7月 No. 22



目 次

表紙 [ヒラフスベ]	佐野修治	1
顕微鏡をのぞいて	小寺祐三	2
テングタケ中毒騒動記	矢野健一	6
1997年度活動の記録		7
関西菌類談話会1998年度総会（第354回例会）報告		15
表紙によせて、など	編集委員会	16

顕微鏡をのぞいて

小 寺 祐 三

野山はまだ冬景色のすがたをとどめ、広葉樹林の中は枯木が林立しているように見え、落ち葉のジュタンを踏みしめて歩く3月初旬も山野草の芽吹きが近いと考えるとなんとなくそわそわした気分になってきます。今年はどんなキノコに出会えるかとても楽しみです。

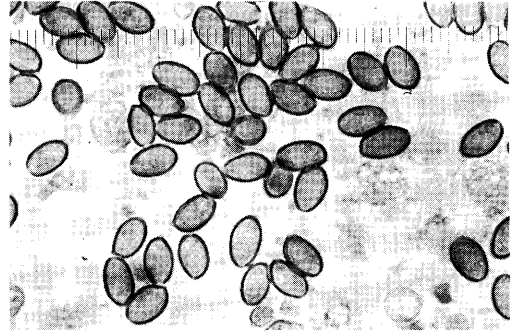
しかし、いろいろと出会うキノコもなかなか種名がわからない。とりあえずなんとか名前をつけてしまおうとしてもなかなか名前がつかない。それゆえ、個体を持ち帰り、検鏡してみても種名が判明したときの喜びはひとしおです。逆にどうもがいても不明のままとなったときはどっと疲れがでてきます。

そんな試行錯誤の繰り返しの日々が続くなかで、すばらしい感動を与えてくれる胞子の姿の一部ですが会報の紙面をお借りして報告させていただきます。

※注 撮影倍率は35ミリのフィルム上の倍率で、
×50ではスケール1目盛り10.1 μm 、×200
は2.5 μm 、×500は1 μm で計算します。
(撮影した胞子のサイズを表示しています。)

以下ハラタケ目菌類の胞子

ヒカゲシビレタケ (モエギタケ科)



6~6.5×3.5~4 μm (×500)

京都市、尾越で採集。

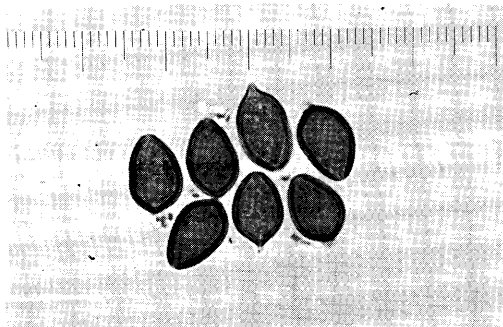
オオワライタケ (フウセンタケ科)



7~8×5~5.5 μm (×500)

京都市、稲荷山で採集。

オオンシビレタケ (モエギタケ科)



10~11.5×6~6.5 μm (×500)

滋賀県大津市で採集。

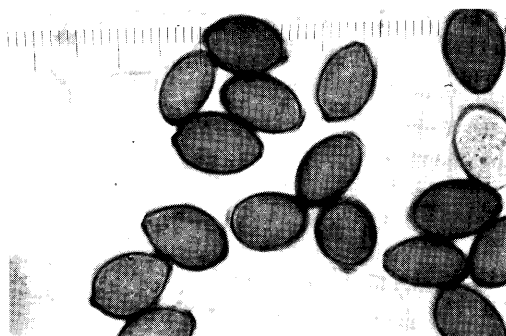
ヤナギマツタケ (オキナタケ科)



8.5~11×5~6 μm (×500)

京都市、円山公園で採集。

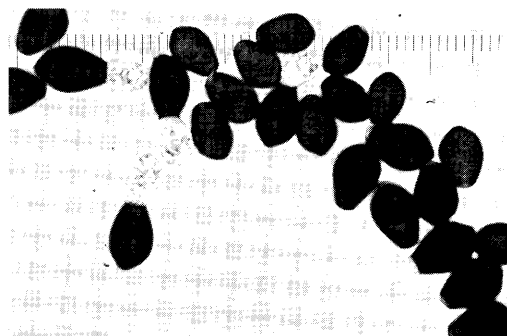
ネナガツバタケ (モエギタケ科)



10~11.5×6~7.5 μm (×500)

滋賀県, 函館山のスキー場に置かれた古い畳の裏に大発生。

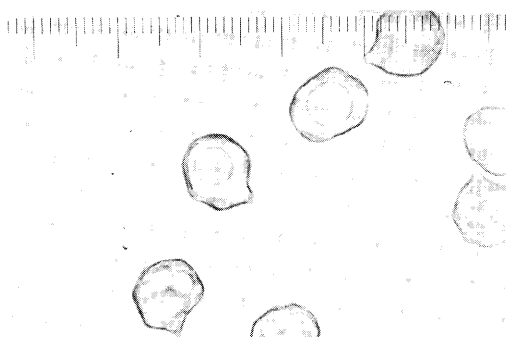
キララタケ (ヒトヨタケ科)



7~8.5×4.5~5.5 μm (×500)

胞子の発芽がはじまっている。京都市, 八丁平にて採集。

ハルシメジ (イッボンシメジ科)

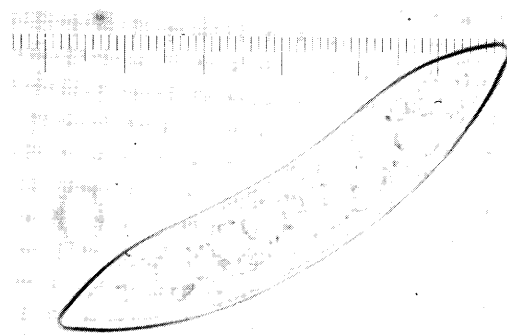


10~11×8~9 μm (×500)

京都市, 宝ヶ池公園で採集。

以下, 子囊菌類の胞子

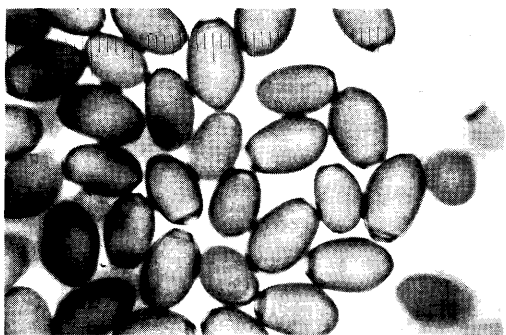
キリノミタケ (ベニチャワンタケ科)



67.5×13 μm (×500)

珍菌キリノミタケの標本は吉見先生からの提供。

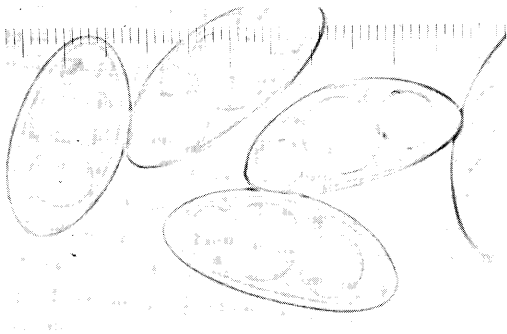
ササクレヒトヨタケ (ヒトヨタケ科)



8~11×6~7 μm (×500)

京都市, 宝ヶ池公園

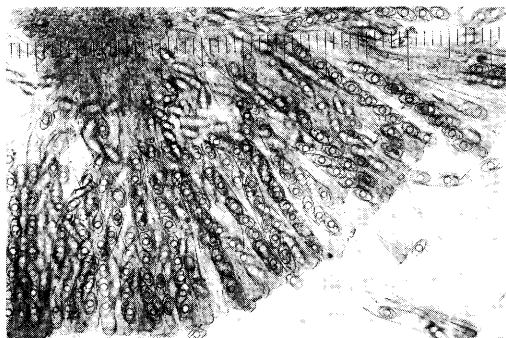
ミミブサタケ (ベニチャワンタケ科)



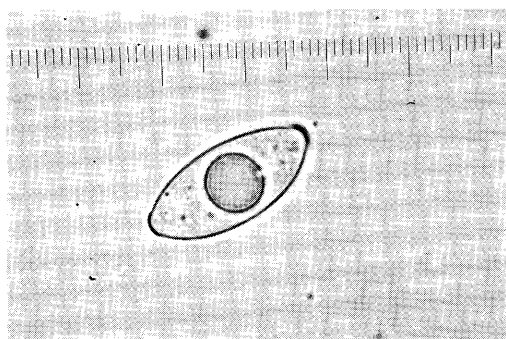
26~30×13~14 μm (×500)

美しい胞子である。オオミノミミブサタケはさらに胞子が大きいので区別できる。

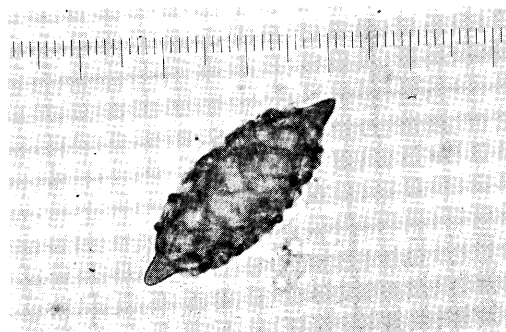
フクロシトネタケ（ノボリリュウタケ科）



（子嚢中に8個の胞子が存在）（×50）＊1



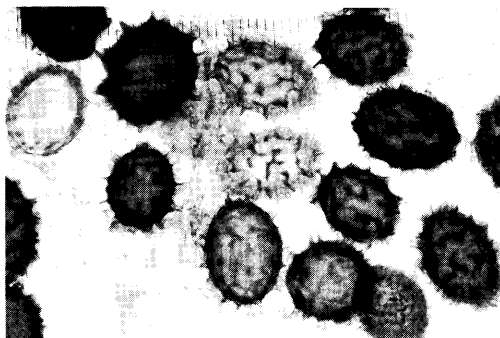
（ $22 \times 10 \mu\text{m}$ ）（×50）＊2



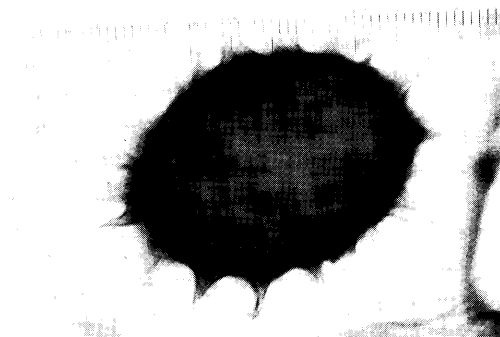
（ $32.5 \times 12.5 \mu\text{m}$ ）（×500）＊3

滋賀県朽木村、朝日の森で採集。未成熟の状態（肉眼的には完熟しているように見えるが）では胞子は＊2の状態であり、＊1のように子の中にも8個の胞子が存在する。やがて個体が完熟すると胞子は＊3のように嘴状突起のある胞子になる。完熟状態での検鏡が重要である。

イボセイヨウショウロ（セイヨウショウロ科）



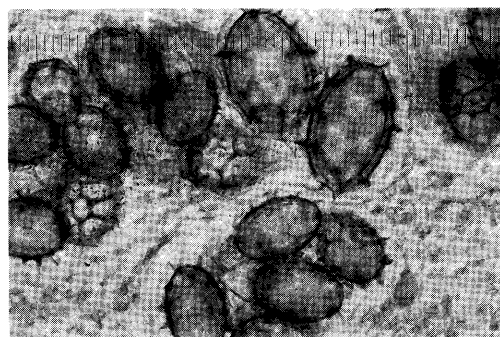
（×200）でもこんなに大きい胞子。吉見先生より標本提供。



$35 \times 27 \mu\text{m}$ （トゲを除く）（×500）

$40 \mu\text{m}$ に達する胞子も存在した。トゲは $7 \mu\text{m}$

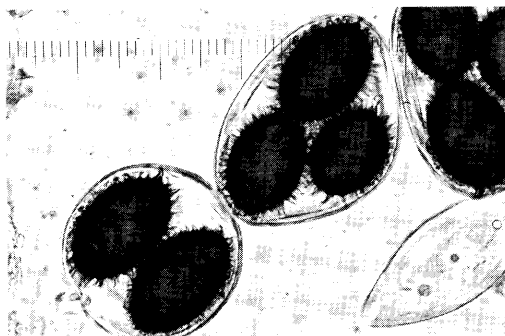
クロアミセイヨウショウロ（セイヨウショウロ科）



$27.5 \sim 40 \times 18.7 \sim 26 \mu\text{m}$ （×200）

1998年度きのこ展に展示の標本を検鏡。いわゆる夏トリュフ。

クロトリュフ (セイヨウシヨウロ科)

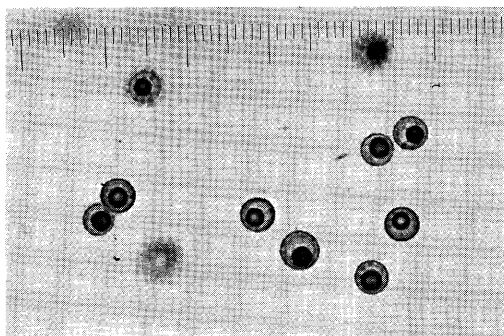


27.5~37.5×22.5~25 μm (×200)

神戸市のホテルで宴会の料理に出た一切片を持ち帰り検鏡した。子囊中には2~5個の胞子が存在。後日、吉見先生に *Tuber melanosporum* (クロトリュフ) と同定していただいた。

以下、腹菌類の胞子

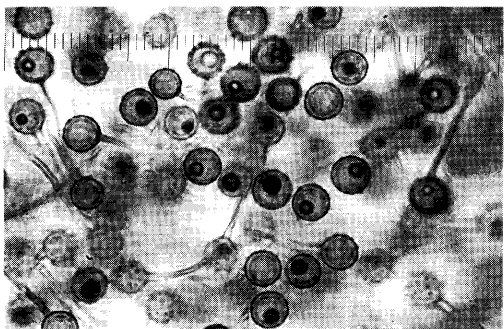
アバタチャブクロタケ (ホコリタケ科)



4~5 μm 球形胞子 (×500)

京都市, 八丁平湿原で採集。

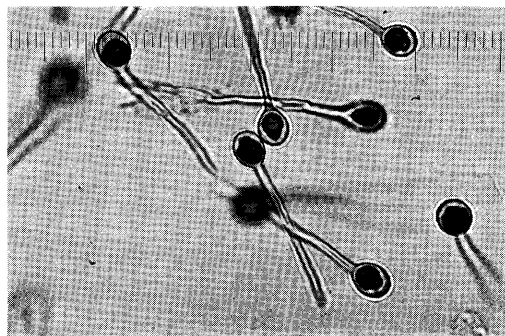
アラゲホコリタケ (ホコリタケ科)



4~5 μm 球形胞子 (×500)

胞子はトゲ状で長柄を有する。

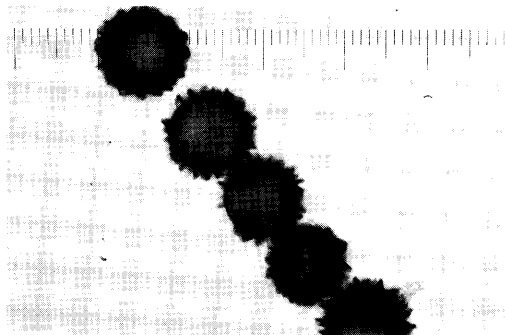
アラゲホコリタケモドキ (ホコリタケ科)



4.5 μm~3×4 μm (×500)

胞子は長柄をつけるが平滑である。

チチシヨウロ (エラスモキセス科チチシヨウロ属)



8.5~9 μm 球形胞子 (×500)

メルツァー試薬浸透で瞬時にアミロイド反応を示す。

アミメニセシヨウロ (ニセシヨウロ科)



7~8 μm 球形胞子 (トゲを除く) (×500)

1 μm 前後の短柄をつける。

テングタケ中毒騒動記

矢野健一

阪大吹田キャンパスから、小野原への坂道を登りきったところで、旧山田街道が左に分かれていく。その道を約100 m進むと、右に与兵衛の泣き地蔵が見える。1996年9月28日、土曜日の朝、健は地蔵を20 m 通りすぎ、左の私道の畦道に降り、突き当たりの小さな池の右側を通り抜けた。愛犬マルの引き綱を外し、うれしそうに山の方に向かって先を走っていく後を追う。山道に入ると、夏に雨が多く涼しかったからか、例年になくキノコが目立った。

健は、散歩の帰りに、食べられそうなキノコを探そうと考えた。千里北公園に隣接する、孟宗竹の林の中は、一面にキノコが生えていた。種類は3種で、どれも臭く汚くて、食べる気が起こらなかった。

公園の上に出て、椎の木（スダジイ）の茂みまで降りて行った。マルを側の植木の支柱のつないだ。夏の雨のせいで椎も豊作であったが、まだ時期が早く、黒光りした実が袴の裂け目から顔をのぞかせているのは、ちらほらしかなかった。枝をたぐり、袴を剥き実を採っていた。大きな実を一つ取り落とし、探そうと枝の下を見ると、椎の枝が作る影に沿って、優しげな茶色のキノコが20本余り生えていた。傘に白いイボイボがついている。幼菌は見つからなかった。健は、地面に両手をつき、鼻をキノコにくっつけた。旨そうな香り。これは天からの贈り物、椎の木の上の実と、根元のキノコが楽しめる。太って旨そうなのを5本採った。

夕方、健の採ってきた得体の知れないキノコを気持ち悪がった女房が、キノコの端をかじった。「うん、これは旨い。湯豆腐に入れてもいいわ。」

しかし、キノコの煮汁が、湯豆腐の中に出るのを嫌がって、自分の分を取り上げた鍋に、健の分のキノコを入れて、テーブルに持って来た。健は、キノコが煮えるのを待てなかった。6時半、ビールのつまみに、傘を湯で洗ってキノコを生食した。うすい旨味があり、くせがなく食べられた。茎は、

無味無臭。太い茎にかぶりついたとき、不快感を舌に感じ、胃から十二指腸への通過口、幽門が閉じた感じがした。意地で食べ続けた。やっと、一番下で湯に浸っていた大きな傘が、柔らかく煮えていた。これは旨かった。胃の動きが止まっているのに食べ続けたので、胃袋が張ってきた。7時、これは胃が働らくのを嫌っていると感じて、残っている豆腐を食べるのを止めて席を立った。胃の張りを軽くしようと、トイレに入った。下痢便を排出。

二階の書斎で、新聞の切り抜きを整理していると、9時、嘔気が上ってきた。トイレで、黒く変色したキノコを全て吐き出した。毒キノコだ！

山と溪谷社の「山の幸」を見て、テングタケであったことを確認し、次いで、健も共著者になっている南山堂の「新内科書」を調べた。テングタケの毒素は、ムスカリンを主、イボテン酸を従とし、嘔吐、下痢を中心とした消化器症状を示すが致命的なものではない。それを知り安心した。嘔吐、下痢は、既に終えたので、テングタケ中毒の症状は終了したと思われた。しかし、吸収され体内に残っている毒素を速く解毒させるためには、安静にして肝臓が働き易くする必要がある。健は、安静を保つため、9時半に寝た。嗜眠状態になっていたのか、すぐに眠り込んでしまった。

0時、幻覚の中に点状の光がグリーンと大きくなってきて、赤紫色のネオンサインの看板となった。中央部分が輝きはじめ、「救急車を呼べ」という黄色のネオンが緊急点滅を始めた。動物的本能中枢が、生命の緊急事態を人間的知能中枢に伝えているのだと気づき、健は目を覚ました。テングタケ中毒は、キノコを吐き出しただけでは完了してなかった。まず血圧はと、右手で左手首の脈をとり、触診で血圧を測る。人差し指で、脈に触れるだけで、脈が末端側の中指に伝わらない。血圧は50以下だ。低血圧状態が長引くと、それだけでショックを起こす。女房を起こし、救急車を呼ばせ

た。再度、血圧を測ろうと思った時は、手が全く動かず、四肢麻痺状態になっていた。頻脈、呼吸促進を感じた。救急車を呼んだのは、危機一髪のタイミングであった。

不思議なこと：健の知能中枢は、血圧を測って低血圧に気づいた。手を動かそうとして麻痺がなかった。動物的本能は、どうして毒が入ったこと、血圧が下がって生命の緊急事態になったことの情報を集められるのか？

0時45分、千里救急救命センターに着いた。四肢麻痺、知覚鈍麻を認め、乳酸リンゲルの点滴と胃洗浄を受けた。

1時30分、活性炭と下剤溶液を胃に注入し、胃洗浄を終了した。手足は動かせるようになった。空間認識、時間認識は、軽度障害とされていた。

2時、胃に注入された活性炭と下剤溶液を全て吐き出して、胃の幽門が開き、胃のつかえた感じが完全に消失した。トイレにゆっくり歩ける程度に筋力は回復した。眠る。

6時、起床。筋力、空間認識、時間認識、全て正常に回復した。

総括

1) 幼菌を見ておれば、食べる前にキノコの本を

調べていただろう。

2) キノコ毒素は、加熱により一部は壊れる。4本を生食したので麻痺状態まで起こしてしまったと考えられる。

3) テングタケの毒素の主成分が、ムスカリン（戸崎 1998）より、1990年からイボテン酸（山浦 1990）に変わった。この経緯は不明。

4) テングタケの大きな傘1枚ぐらいが、天然フグの肝1人前見当と考えられる。イボテン酸は、大変旨い！（山崎 1985）

附) 人の多い千里北公園なので、次の秋にテングタケが育っていれば、市に連絡しようと思った。しかし、痩せこけたテングタケ1本のみ。それ以降も、食欲をそそるようなテングタケは生えていない。

文 献

- 1) 戸崎洋子（1998）「自然毒、キノコ」救急医学，12（10）：1551-1559
- 2) 山浦由郎（1990）「キノコ」図説救急医学講座6中毒 p 238-241. メジカルビュー社
- 3) 山崎幹夫（1985）「幻覚性キノコ毒」毒の話，中公新書781，p 131-143. 中央公論社

1997年度 活動の記録

第346回例会 榎原神宮菌類観察・採集会

日 時：1997年7月6日（日）晴

46名参加

場 所：榎原市榎原神宮境内（シイ・カシ林）

梅雨の季節ではあるが、今までのところ目立った雨はほとんど無く、林床はカラカラに乾いていたため、きのこの発生は少なかった。悪条件の中63種が採集・同定できたが、軟質菌は少なかった。

今回から、のちのちの研究に役立たせるため採集品を標本として保存することになり、その一部を大阪市立自然史博物館に送った。（荒井 滋）

採取品リスト

- 1 *Lentinus lepideus* マツオウジ
- 2 *Schizophyllum commune* スエヒロタケ

- 3 *Asterophora lycoperdoides* ヤグラタケ
- 4 *Laccaria vinaceoavellanea* カレバキツネタケ
- 5 *Marasmius maximus* オオホウライタケ
- 6 *Cyptotrama asprata* ダイダイガサ
- 7 *Lepista* sp. ムラサキシメジ属
- 8 *Amanita frinosa* ヒメコナカブリツルタケ
- 9 *Amanita pantherina* テングタケ
- 10 *Amanita ceciliae* テングツルタケ
- 11 *Amanita hemibapha* subsp. *javanica* キタマゴタケ
- 12 *Amanita hemibapha* subsp. *similis* チャタマゴタケ
- 13 *Amanita longistriata* タマゴテングタケモドキ
- 14 *Amanita spissacea* ヘビキノコモドキ
- 15 *Pluteus atricapillus* ウラベニガサ
- 16 *Pluteus* sp. ウラベニガサ属

17 <i>Agaricus</i> sp.	ハラタケ属
18 <i>Psathyrella</i> sp.	ナヨタケ属
19 <i>Pholiota malicola</i>	カオリツムタケ
20 <i>Tylopilus eximius</i>	ウラグロニガイグチ
21 <i>Tylopilus vinosobrunneus</i>	ブドウニガイグチ
22 <i>Boletus reticulatus</i>	ヤマドリタケモドキ
23 <i>Boletus violaceofuscus</i>	ムラサキヤマドリタケ
24 <i>Boletus fraternus</i>	コウジタケ
25 <i>Russula nigricans</i>	クロハツ
26 <i>Russula foetens</i>	クサハツ
27 <i>Russula foetens</i> 近縁種	クサハツ近縁種
28 <i>Russula derica</i> var. <i>glaucophylla</i>	アイバシロハツ
29 <i>Russula cyanoxantha</i>	カワリハツ
30 <i>Russula vesca</i>	チギレハツタケ
31 <i>Russula mariae</i>	ニオイコベニタケ
32 <i>Russula castanopsidis</i>	カレバハツ
33 <i>Russula</i> sp.	ベニタケ属
34 <i>Cantharellus cibarius</i>	アンズタケ
35 <i>Sparasis crispa</i>	ハナビラタケ
36 <i>Polyporus tuberaster</i>	タマチョレイタケ
37 <i>Polyporus suquamosus</i>	アミスギタケ
38 <i>Polyporus badius</i>	アングロタケ
39 <i>Microporus vernicipes</i>	ツヤウチワタケ
40 <i>Microporus subaffinis</i>	ツヤウチワタケモドキ
41 <i>Laetiporus versisporus</i>	ヒラフスベ
42 <i>Phaeolus schweinitzii</i>	カイメンタケ
43 <i>Coltricia cinnamomea</i>	ニッケイタケ
44 <i>Trametes versicolor</i>	カワラタケ
45 <i>Trametes orientalis</i>	クジラタケ
46 <i>Ganoderma lucidum</i>	マンネンタケ
47 <i>Ganoderma applanatum</i>	コフキサルノコシカケ
48 <i>Onnia scaura</i>	アズマタケ
49 <i>Tremella mesenterica</i> ?	コガネニカワタケ?
50 <i>Phanerochaete chrysorhiza</i>	ヒイロハリタケ
51 <i>Fomitella fraxinea</i>	ベッコウタケ
52 <i>Astraeus hygrometricus</i>	ツチグリ
53 <i>Scleroderma</i> sp.	ニセショウロ属
54 <i>Pisolithus tinctorius</i>	コツブタケ
55 <i>Auricularia polytricha</i>	アラゲキクラゲ
56 <i>Cordyceps annulata</i>	ヒメクチキタンボタケ
57 <i>Tilachlidiopsis nigra</i>	オサムシタケ
58 <i>Nomuraea atypicola</i>	クモタケ
59 <i>Xylaria periscaria</i>	フウノミタケ
60 <i>Xylaria</i> sp.	クロサイワイタケ属

第347回例会 宇治大吉山観察会

日 時：1997年7月20日 晴天
参加者名簿に記載69名，
(内21名非会員)

場 所：宇治大吉山

例年この時期は天候が不安定で世話役としては祈るような気持ちにさせられるが、長梅雨明けの晴天になった。ノルウエーのP. マルスタッド氏とスウェーデンのマリー女史の参加があり、日本固有種のシラタマタケに興味を示していた。採集種には日本新産種と思われるヒステランギウム属の1種があった。

同定後はミニ講座、橋屋 誠氏「採集されたチタケ属」、横山和正氏「採集菌類総括」の後、マルスタッド氏持参のノルウエーのきのこのスライドを関西総合環境センター生物環境研究所で鑑賞した。(杉山 記)

採取品リスト

1 <i>Laccaria vinaceoavellanea</i>	カレバキツネタケ
2 <i>Collybia dryophila</i>	モリノカレバタケ
3 <i>Collybia</i> sp.	モリノカレバタケ
4 <i>Lepista sordida</i>	コムラサキシメジ
5 <i>Oudemansiella pudens</i>	ビロードツエタケ
6 <i>Amanita vaginata</i> var. <i>vaginata</i>	ツルタケ
7 <i>Amanita vaginata</i> var. <i>fulva</i>	カバイロツルタケ
8 <i>Amanita pantherina</i>	テングタケ
9 <i>Amanita</i> sp.	イロガワリテングタケ?
10 <i>Amanita pseudoporphyria</i>	コテングタケモドキ
11 <i>Amanita fuliginosa</i>	クロタマゴテングタケ
12 <i>Amanita citrina</i> var. <i>gisea</i>	クロコタマゴテングタケ
13 <i>Amanita citrina</i> var. <i>citrina</i>	コタマゴテングタケ
14 <i>Amanita voluata</i>	フクロツルタケ
15 <i>Amanita rubescens</i>	ガンタケ
16 <i>Amanita spissacea</i>	ヘビキノコモドキ
17 <i>Amanita</i> sp.	ハイカグラテングタケ
18 <i>Agaricus abruptibulbus</i>	ウスキモリノカサ
19 <i>Agaricus essettei</i>	ハラタケ属
20 <i>Cortinarius elatior</i>	アブラシメジ
21 <i>Hebeloma</i> sp.	ワカフサタケ属
22 <i>Rhodophyllus omiensis</i>	ウスキモミウラモドキ
23 <i>Rhodophyllus quadratus</i>	アカイボカサタケ
24 <i>Rhodophyllus murrainii</i>	キイボカサタケ

- | | | | |
|---|--------------|--|---------------|
| 25 <i>Inocybe lutea</i> | キイロアセタケ | 70 <i>Fistulina hepatica</i> | カンゾウタケ |
| 26 <i>Paxillus atrotomentosus</i> | ニワタケ | 71 <i>Polyporus badius</i> | アシグロタケ |
| 27 <i>Phylloporus bellus</i> | キヒダタケ | 72 <i>Laetiporus versisporus</i> | ヒラフスベ |
| 29 <i>Phylloporus bellus</i> var. <i>cyanescens</i> | イロガワリキヒダタケ | 73 <i>Ischnoderma resinosum</i> ? | ヤニタケ (?) 幼菌 |
| 30 <i>Phylloporus</i> sp. | キヒダタケ属 | 74 <i>Pycnoporus coccineus</i> | ヒイロタケ |
| 31 <i>Xerocomus</i> sp. | キッコウアワタケ近縁種 | 75 <i>Trametes versicolor</i> | カワラタケ |
| 32 <i>Xerocomus nigromaculatus</i> | クロザアワタケ | 76 <i>Perenniporia ochroleuca</i> | ウズラタケ |
| 33 <i>Pulveroboletus ravenellii</i> | キイロイグチ | 77 <i>Fomitopsis pinicola</i> | ツガサルノコシカケ |
| 34 <i>Pulveroboletus auriflammeus</i> | ハナガサイグチ | 78 <i>Ganoderma applanatum</i> | コフキサルノコシカケ |
| 35 <i>Aureoboletus thibetanus</i> | スメリコウジタケ | 79 <i>Calvatia craniiformis</i> | ノウタケ |
| 36 <i>Boletus ornatipes</i> | キアミアシイグチ | 80 <i>Lycoperdon perlatum</i> | ホコリタケ |
| 37 <i>Boletus quercinus</i> | ナガエノウラベニイグチ | 81 <i>Lycoperdon bispinosum</i> | フタトゲホコリタケ |
| 38 <i>Boletus pseudocalopus</i> | ニセアシベニイグチ | 82 <i>Hysterangium</i> sp. | ヒステランギウム属 |
| 39 <i>Boletus laetissimus</i> | ダイダイイグチ | 83 <i>Kobayasia nipponica</i> | シラタマタケ |
| 40 <i>Tylopilus ballouii</i> | キニガイグチ | 84 <i>Auricularia auricula</i> | キクラゲ |
| 41 <i>Tylopilus</i> sp. | ミドリニガイグチ近縁種 | 85 <i>Bisporella citrina</i> | ビョウタケ |
| 42 <i>Tylopilus vinosobrunnens</i> | ブドウニガイグチ | 86 <i>Dicephalospora rufocornea</i> | ニセキンカクアカビョウタケ |
| 43 <i>Tylopilus nigerrimus</i> | モエギアミアシイグチ | 87 <i>Xylaria polymorpha</i> | マメザヤタケ |
| 44 <i>Tylopilus valens</i> | ホオベニシロアシイグチ | 88 <i>Nomuraea atypicola</i> | クモタケ |
| 45 <i>Leccinum extremiorientale</i> | アカヤマドリ | | |
| 46 <i>Strobilomyces</i> sp. | オニイグチモドキ近縁種 | 第348回例会 八ヶ岳山麓観察会 | |
| 47 <i>Austroboletus subvirens</i> | オオヤシャイグチ | 日 時: 1997年 8月23日 (土)~26日 (火) | |
| 48 <i>Boletellus emodensis</i> | キクバナイグチ | 62名参加 | |
| 49 <i>Boletellus russellii</i> | セイタカイグチ | 場 所: 長野県諏訪郡原村 | |
| 50 <i>Boletellus elatus</i> | アシナガイグチ | (カラマツ林・落葉広葉樹林) | |
| 51 <i>Heimiella japonica</i> | ベニイグチ | 採取品リスト | |
| 52 <i>Russula japonica</i> | シロハツモドキ | 1 <i>Agrocybe erebia</i> | ツチナメコ |
| 53 <i>Russula cyanoxantha</i> | カワリハツ | 2 <i>Albatrellus dispansus</i> | コウモリタケ |
| 54 <i>Russula vesca</i> | チギレハツタケ | 3 <i>Amanita abrupta</i> | タマシロオニタケ |
| 55 <i>Russula mariae</i> | ニオイコベニタケ | 4 <i>Amanita citrina</i> var. <i>citrina</i> | コタマゴテングタケ |
| 56 <i>Russula amoena</i> | ムラサキカスリタケ | 5 <i>Amanita citrina</i> var. <i>grisea</i> | クロコタマゴテングタケ |
| 57 <i>Russula castanopsidis</i> | カレバハツ | 6 <i>Amanita esculenta</i> | ドウシントケ |
| 58 <i>Russula viridirubroimbata</i> | フタイロベニタケ | 7 <i>Amanita farinosa</i> | ヒメコナカブリツルタケ |
| 59 <i>Russula</i> sp. | ベニタケ属 | 8 <i>Amanita hemibapha</i> subsp. <i>hemibapha</i> | タマゴタケ |
| 60 <i>Lactarius corrugis</i> | チリメンチチタケ | 9 <i>Amanita longistriata</i> | タマゴテングタケモドキ |
| 61 <i>Lactarius gerardii</i> | クロチチダマシ | 10 <i>Amanita pantherina</i> | テングタケ |
| 62 <i>Lactarius</i> sp. | モチゲチチタケ | 11 <i>Amanita porphyria</i> | コテングタケ |
| 63 <i>Cantharellus</i> sp. | アンズタケ属 | 12 <i>Amanita</i> sp. | ツルタケ近縁種 |
| 64 <i>Cantharellus minor</i> | ヒナアンズタケ | 13 <i>Amanita</i> sp. | ヘビキノコモドキの近縁種 |
| 65 <i>Cantharellus cinnabarinus</i> | ベニウスタケ | 14 <i>Amanita vaginata</i> var. <i>fulva</i> | カバイロツルタケ |
| 66 <i>Clavulina cristata</i> | カレエダタケ | | |
| 67 <i>Clavulina amethystinoides</i> | ムラサキホウキタケモドキ | | |
| 68 <i>Clavicornia pyxidata</i> | フサヒメホウキタケ | | |
| 69 <i>Sparassis crispa</i> | ハナビラタケ | | |

- 15 *Amanita vaginata* var. *vaginata* ツルタケ
16 *Amanita volvata* フクロツルタケ
17 *Ascocoryne* sp. ムラサキゴムタケ属
18 *Asterophora lycoperdoides* ヤグラタケ
19 *Astraceus* sp. ツチグリ属
20 *Bjerkandera* sp. ヤケイロタケ属
21 *Boletellus* sp. アヤメイグチ近縁種
22 *Boletinus paluster* カラマツベニハナイグチ
23 *Boletus* sp. ヤマドリタケ属
24 *Boletus calopus* アシベニイグチ
25 *Boletus fraternus* コウジタケ
26 *Boletus odaiensis* オオダイアシベニイグチ
27 *Boletus subvelutipes*
アメリカウラベニイログワリ
28 *Boletus venenatus* ドクヤマドリ
29 *Bondarzewiaceae* ミヤマトンビマイ科
30 *Bulgaria inquinans* ゴムタケ
31 *Callistosporium luteoolivaceum* ヒメキシメジ
32 *Calocera viscosa* ニカワホウキタケ
33 *Cantharellus* sp. アンズタケ属
34 *Chalciporus piperatus* コショウイグチ
35 *Chlorociboria aeruginosa*
ロクショウグサレキン
36 *Chroogomphus tomentosus* フサクギタケ
37 *Clavariadelphus ligula* コスリコギタケ
38 *Clavicornia pyxidata* フサヒメホウキタケ
39 *Clavulina cristata* カレエダタケ
40 *Clavulinopsis* sp. ナギナタタケ属
41 *Clitocybe* sp. カヤタケ属
42 *Clitocybe clavipes* ホテイシメジ
43 *Clitocybe fragrans* コカブイヌシメジ
44 *Clitocybe gibba* カヤタケ
45 *Clitocybe* sp. イヌシメジの近縁種
46 *Collybia* sp. モリノカレバタケ属
47 *Collybia confluens* アマタケ
48 *Collybia dryophila* モリノカレバタケ
49 *Collybia maculata* アカアザタケ
50 *Collybia peronata* ワサビカレバタケ
51 *Collybia* sp. アマタケ近縁種
52 *Coltricia cinnamomea* ニッケイタケ
53 *Cordyceps nutans* カメムシタケ
54 *Cordyceps tracentri* アワフキムシタケ
55 *Trametes versicolor* カワラタケ
56 *Cortinariaceae* フウセンタケ科
57 *Cortinarius armillatus* ツバフウセンタケ
58 *Cortinarius salor* ムラサキアブラシメジモドキ
59 *Cortinarius* sp. 1 フウセンタケ属 1
60 *Cortinarius* sp. 2 フウセンタケ属 2
61 *Cortinarius* sp. 3 フウセンタケ属 3
62 *Cortinarius traganus*
オオウスムラサキフウセンタケ
63 *Cortinarius trivialis* マムシフウセンタケ
64 *Cortinarius variegatus* フジイロタケモドキ
65 *Crepidotus* sp. チャヒラタケ属
66 *Crucibulum laeve* ツネノチャダイゴケ
67 *Cudonia helvelloides* クラタケ
68 *Cudonia japonica* ゴンゲンタケ
69 *Cyathus* sp. チャダイゴケ属
70 *Cyathus striatus* スジチャダイゴケ
71 *Cystoderma* シワカラカサタケ属
72 *Cystoderma terreii* チャヒメオニタケ
73 *Dacrymyces* sp. 1 アカキクラゲ属 1
74 *Dacrymyces* sp. 2 アカキクラゲ属 2
75 *Daedalea* sp. ホウロクタケ属
76 *Daedalea dickinsii* ホウロクタケ
77 *Daedaleopsis tricolor* チャカイガラタケ
78 *Dermocybe* sp. ササタケ属
79 *Dermocybe cinnamomea* ササタケ
80 *Dermocybe semisanguinea* アカヒダササタケ
81 *Dictyophora duplicata* マクキヌガサタケ
82 *Fomes fomentarius* ツリガネタケ
83 *Geoglossum fallax* v. *fallax*
カバイロテングノメシガイ
84 *Gomphidius roseus* オウギタケ
85 *Gomphus floccosus* ウスタケ
86 *Helvella macropus* ナガエノチャワソウタケ
87 *Heterobasidion insulare* レンガタケ
88 *Humaria hemisphaerica* シロスズメノワン
89 *Hydnellum* sp. チャハリタケ属
90 *Hydnellum caeruleum* ニオイハリタケモドキ
91 *Hydnellum concrescens* チャハリタケ
92 *Hydnellum suaveolens* ニオイハリタケ
93 *Hydnum repandum* カノシタ
94 *Hygrophorus camarophyllus* ヤギタケ
95 *Hypoxylon truncatum* クロコブタケ
96 *Inocybe calamistrata* アオアシアセタケ
97 *Inocybe cookei* キヌハダトマヤタケ
98 *Inocybe geophylla* シロトマヤタケ
99 *Inocybe rimosa* オオキヌハダトマヤタケ
100 *Inocybe* sp. 1 アセタケ属 1
101 *Inocybe* sp. 2 アセタケ属 2
102 *Inocybe* sp. 3 アセタケ属 3

103	<i>Inocybe umbratica</i>	シロニセトマヤタケ	148	<i>Panus suavissimus</i>	ニオイカワキタケ
104	<i>Laccaria bicolor</i>	オオキツネタケ	149	<i>Paxillus</i> sp.	ヒダハタケ属
105	<i>Laccaria laccata</i>	キツネタケ	150	<i>Paxillus involutus</i>	ヒダハタケ
106	<i>Lachnum</i> sp.	シロヒナノチャワಂತケ属	151	<i>Perenniporia minutissima</i>	サワフタギタケ
107	<i>Lactarius gerardii</i>	クロチチダマシ	152	<i>Peziza</i> sp.	チャワಂತケ属
108	<i>Lactarius hygginus</i>	ヌメリアカチチタケ	153	<i>Peziza badia</i>	クリイロチャワಂತケ
109	<i>Lactarius lignyotus</i>	クロチチタケ	154	<i>Peziza praetervisa</i>	フジイロチャワಂತケモドキ
110	<i>Lactarius ochrogalactus</i>	ヒロハチャチチタケ	155	<i>Peziza</i> sp.	オオチャワಂತケ?
111	<i>Lactarius porninsis</i>	カラマツチチタケ	156	<i>Phaeolus schweinitzii</i>	カイメンタケ
112	<i>Lactarius quietus</i>	チョウジチチタケ	157	<i>Phellodon</i> sp.	クロハリタケ属
113	<i>Lactarius</i> sp. 1	チチタケ属 1	158	<i>Phellodon niger</i>	クロハリタケ
114	<i>Lactarius</i> sp. 2	チチタケ属 2	159	<i>Phlebia tremellosus</i>	シワタケ
115	<i>Lactarius subvellereus</i>	ケシロハツモドキ	160	<i>Pholiota</i> sp.	スギタケ属
116	<i>Lactarius subzonarius</i>	ニオイワチチタケ	161	<i>Pholiota flammans</i>	ハナガサタケ
117	<i>Lactarius thejogalus</i>	キチチタケ	162	<i>Pholiota terrestris</i>	ツチスギタケ
118	<i>Lactarius uvidus</i>	トビチャチチタケ	163	<i>Pluteaceae</i>	ウラベニガサ科
119	<i>Lactarius volemus</i>	チチタケ	164	<i>Pluteus</i> sp.	ウラベニガサ属
120	<i>Leotia lubrica</i> f. <i>lubrica</i>	ズキンタケ	165	<i>Polyporaceae</i>	タコウキン科
121	<i>Lepiota acutesquamosa</i>	オニタケ	166	<i>Polyporellus badius</i>	アシグロタケ
122	<i>Lepiota clypeolaria</i>	ワタカラカサタケ	167	<i>Pseudoclitocybe cyathiformis</i>	クロサカズキシメジ
123	<i>Lepiota</i> sp.	キツネノカラカサタケ属	168	<i>Pseudocolus schellenbergiae</i>	サンコタケ
124	<i>Leucoagaricus</i> sp.	シロカラカサタケ属	169	<i>Pseudohydnum gelatinosum</i>	ニカワハリタケ
125	<i>Limacella glioderma</i>	チャヌメリカラカサタケ	170	<i>Pulveroboletus ravenelii</i>	キイロイグチ
126	<i>Lyophyllum connatum</i>	オシロイシメジ	171	<i>Ramaria abietina</i>	モエギホウキタケ
127	<i>Lyophyllum semitale</i>	スミゾメシメジ	172	<i>Ramaria rubella</i>	ラマリア・ルペラ
128	<i>Macrolepiota procera</i>	カラカサタケ	173	<i>Ramaria</i> sp. 1	ホウキタケ属 1
129	<i>Marasmius</i>	ホウライタケ属	174	<i>Ramaria</i> sp. 2	ホウキタケ属 2
130	<i>Marasmius pulcherripes</i>	ハナオチバタケ	175	<i>Ramaria</i> sp. 3	ホウキタケ属 3
131	<i>Melanoleuca</i> sp.	ザラミノシメジ属	176	<i>Ramaria</i> sp. 4	ホウキタケ属 4
132	<i>Melanoleuca grammopodia</i>	オオザラミノシメジ	177	<i>Ramaria</i> sp. 5	ホウキタケ属 5
133	<i>Mollisia cinerea</i>	ハイイロクズチャワಂತケ	178	<i>Ramaria</i> sp. 6	ホウキタケ属 6
134	<i>Mutinus caninus</i>	キツネノロウソク	179	<i>Ramaria</i> sp. 7	ホウキタケ属 7
135	<i>Mycena haematopoda</i>	チシオタケ	180	<i>Ramaria</i> sp. 8	ホウキタケ属 8
136	<i>Mycena osmundicola</i>	シロコナカブリ	181	<i>Ramaria</i> sp. 9	ホウキタケ属 9
137	<i>Mycena pura</i>	サクラタケ	182	<i>Ramaria</i> sp. 10	ホウキタケ属 10
138	<i>Mycena sanguinolenta</i>	ヒメチシオタケ	183	<i>Ramaria</i> sp. 11	ホウキタケ属 11
139	<i>Mycena</i> sp. 1	クスギタケ属 1	184	<i>Ramaria</i> sp. 12	ホウキタケ属 12
140	<i>Mycena</i> sp. 2	クスギタケ属 2	185	<i>Ramaria</i> sp. 13	ホウキタケ属 13
141	<i>Naematoloma fasciculare</i>	ニガクリタケ	186	<i>Ramariopsis fusiformis</i>	ナギナタタケ
142	<i>Nidula niveotomentosa</i>	コチャダイゴケ	187	<i>Ramariopsis helvola</i>	キソウメンタケ
143	<i>Tyromyces chioneus</i>	オシロイタケ	188	<i>Ramariopsis kuntzei</i>	シロヒメホウキタケ
144	<i>Omphalina</i> sp.	ヒダサカズキタケ属	189	<i>Rhizina undulata</i>	ツチクラゲ
145	<i>Inonotus scaurus</i>	サジタケ	190	<i>Rhodophyllum murraii</i>	キイボカサタケ
146	<i>Oudemansiella platyphylla</i>	ヒロヒダタケ	191	<i>Rozites caperata</i>	ショウゲンジ
147	<i>Panellus stypticus</i>	ワサビタケ			

192	<i>Russula amoena</i>	ムラサキカスリタケ
193	<i>Russula aurata</i>	ニシキタケ
194	<i>Russula delicata</i>	シロハツ
195	<i>Russula emetica</i>	ドクベニタケ
196	<i>Russula foetens</i>	クサハツ
197	<i>Russula integra</i>	ヨヘイジ
198	<i>Russula lepida</i>	ヤブレベニタケ
199	<i>Russula nigricans</i>	クロハツ
200	<i>Russula rubescens</i>	イロガワリベニタケ
201	<i>Russula sanguinea</i>	チシオハツ
202	<i>Russula</i> sp. 1	ベニタケ属 1
203	<i>Russula</i> sp. 2	ベニタケ属 2
204	<i>Russula</i> sp.	オオチギレハツタケ
205	<i>Sebacina</i> ? sp.	ロウタケの近縁種
206	<i>Sparassis crispa</i>	ハナビラタケ
207	<i>Spathularia flavida</i>	ヘラタケ
208	<i>Strobilomyces</i> sp.	オニイグチ属
209	<i>Strobilomyces confusus</i>	オニイグチモドキ
210	<i>Strobilomyces strobilaceus</i>	オニイグチ
211	<i>Suillus bovinus</i>	アミタケ
212	<i>Suillus grevillei</i>	ハナイグチ
213	<i>Suillus laricinus</i>	シロヌメリイグチ
214	<i>Suillus spectabilis</i>	キノボリイグチ
215	<i>Tarzetta</i> sp.	タルゼッタ属
216	<i>Thelephora multipartita</i>	キブライボタケ
217	<i>Thelephoraceae</i>	イボタケ科
218	<i>Tricholoma</i> sp.	キシメジ属
219	<i>Tricholoma auratum</i>	シモコシ
220	<i>Tricholoma psammopus</i>	カラマツシメジ
221	<i>Tricholoma saponaceum</i>	ミネシメジ
222	<i>Tricholomopsis decora</i>	キサマツモドキ
223	<i>Tricholomopsis rutilans</i>	サマツモドキ
224	<i>Tylopilus eximius</i>	ウラグロニガイグチ
225	<i>Tylopilus</i> sp. 1	ニガイグチ属 1
226	<i>Tylopilus</i> sp. 2	ニガイグチ属 2
227	<i>Xylaria</i> sp.	クロサイワイタケ属
228	<i>Mydnum</i> sp.	ハリタケ属

第349回例会 宝塚（中山寺）自然休養林
観察菌類目録

日 時：1997年9月21日（日）晴

50名参加

晴天続きでお湿りが欲しいと渴望している時、
台風19号が待望の雨を伴って来襲した。各地で豪
雨の被害が広がったが兵庫県南東部は期待した程

降らなかったし、気温も低下しない、後続の台風
20号も近寄らず雨は望めなかった。極端な菌類の
不作である。ベニタケ属、テングタケ属は全く姿
を見せない、昨年多く発生していたダイダイイグ
チ、モエギアミアシイグチは小指の先程の幼菌状
態であった。

その外の菌類発生個体数も少なく、良好な状態
の菌類は僅かでしたが、当日参加された方々の熱
意とご奮闘によって、上記の菌類を観察リストに
加えることが出来た。

採取品リスト

1	<i>Lentinus lepideus</i>	マツオウジ
2	<i>Hygrophorus arbustivus</i>	コクリノカサ
3	<i>Lyophyllum shimeji</i>	ホンシメジ
4	<i>Laccaria laccata</i>	キツネタケ
5	<i>Callistosporium luteoolivaceum</i>	ヒメキシメジ
6	<i>Oudemansiella pudens</i>	ビロードツエタケ
7	<i>Oudemansiella platyphylla</i>	ヒロヒダタケ
8	<i>Xeromphalina campanella</i>	ヒメカバイロタケ
9	<i>Armillariella tabescens</i>	ナラタケモドキ
10	<i>Gerronema fibula</i>	ヒナノヒガサ
11	<i>Collybia peronata</i>	ワサビカレバタケ
12	<i>Pluteus leoninus</i>	ベニヒダタケ
13	<i>Pluteus</i> sp.	ウラベニガサ属
14	<i>Coprinus</i> sp.	ヒトヨタケ属
15	<i>Psathyrella candolleana</i>	イタチタケ
16	<i>Psathyrella</i> sp.	ナヨタケ属
17	<i>Chroogomphus rutilus</i>	クギタケ
18	<i>Agaricus Issette?</i>	ハラタケ属
19	<i>Agaricus praeclaresquamosus</i>	ナカグロモリノカサ
20	<i>Naematoloma fasciculare</i>	ニガクリタケ
21	<i>Cortinarius</i> sp.	フタイロフウセンタケ近縁種
22	<i>Cortinarius</i> sp.	フウセンタケ属
23	<i>Clitopilus prunulus</i>	ヒカゲウラベニタケ
24	<i>Xerocomus nigromaculatus</i>	クロアザアワタケ
25	<i>Pulveroboletus ravenelii</i>	キイロイグチ
26	<i>Boletus aokii</i>	ヒメコウジタケ
27	<i>Boletus pulverulentus</i>	イロガワリ
28	<i>Boletus laetissimus</i>	ダイダイイグチ
29	<i>Boletus griseus</i> var. <i>fuscus</i>	オオミノクロアワタケ
30	<i>Boletus ornatipes</i>	キアミアシイグチ
31	<i>Boletus reticulatus</i>	ヤマドリタケモドキ
32	<i>Tylopilus nigerrimus</i>	モエギアミアシイグチ

33	<i>Tylopilus chromapes</i>	アケボノアワタケ
34	<i>Tylopilus virens</i>	ミドリニガイグチ
35	<i>Tylopilus neofelleus</i>	ニガイグチモドキ
36	<i>Tylopilus ballouii</i>	キニガイグチ
37	<i>Leccinum intusrubens</i>	イロガワリヤマイグチ
38	<i>Heimiella japonica</i>	ベニイグチ
39	<i>Russula mariae</i>	ニオイコベニタケ
40	<i>Russula</i> sp.	ベニタケ属
41	<i>Clavicornia pyxidata</i>	フサヒメホウキタケ
42	<i>Ramaria</i> sp.	ホウキタケ属
43	<i>Stereopsis burtianum</i>	ハナウロコタケ
44	<i>Thelephora multipartita</i>	キブリーボタケ
45	<i>Thelephora</i> sp.	イボタケ属
46	<i>Pycnoporus coccineus</i>	ヒイロタケ
47	<i>Trametes versicolor</i>	カワラタケ
48	<i>Coriolus</i> sp.	ニクウスバタケ属
49	<i>Cryptoporus volvatus</i>	ヒトクチタケ
50	<i>Oligoporus</i> sp.	アオゾメタケ属
51	<i>Daedaleopsis tricolor</i>	チャカイガラタケ
52	<i>Truncospora ochroleuca</i>	ウズラタケ
53	<i>Fomitopsis pinicola</i>	ツガサルノコシカケ
54	<i>Ganoderma applanatum</i>	コフキサルノコシカケ
55	<i>Geastrum triplex</i>	エリマキツチグリ
56	<i>Vibrissea truncorum</i>	ピンタケ近縁種

採取品リスト

1	<i>Schizophyllum commune</i>	スエヒロタケ
2	<i>Lyophyllum decastes</i>	ハタケシメジ
3	<i>Mycena pura</i>	サクラタケ
4	<i>Ticholoma auratum</i>	シモコシ
5	<i>Collybia</i> sp. 1	モリノカレバタケ属 1
6	<i>Collybia</i> sp. 2	モリノカレバタケ属 2
7	<i>Xeromphalina campanella</i>	ヒメカバイロタケ
8	<i>Armillariella mellea</i>	ナラタケ
9	<i>Amanita virosa</i>	ドクツルタケ
10	<i>Amanita citrina</i> var. <i>citrina</i>	
		コタマゴテングタケ
11	<i>Amanita vaginata</i> ver. <i>fulva</i>	カバイロツルタケ
12	<i>Amanita abrupta</i>	タマシロオニタケ
13	<i>Amanita</i> sp.	テングタケ属
14	<i>Hebeloma sacchariolens</i>	ヒメワカフサタケ
15	<i>Pluteus atricapillus</i>	ウラベニガサ
16	<i>Paxillus curtisii</i>	サケバタケ
17	<i>Naematoloma fasciculare</i>	ニガクリタケ
18	<i>Gymnopilus liquiritiae</i>	チャツムタケ
19	<i>Agrocybe erebia</i>	ツチナメコ
20	<i>Inocybe</i> sp. 1	アセタケ属 1
21	<i>Inocybe</i> sp. 2	アセタケ属 2
22	<i>Cortinarius aureobrunneus</i>	

キンチャフウセンタケ

23 *Cortinarius rubicundulus*

イロガワリフウセンタケ

24	<i>Cortinarius haasii</i>	フタイロフウセンタケ
25	<i>Cortinarius azureus</i>	ハイムラサキフウセンタケ
26	<i>Cortinarius</i> sp. 1	フウセンタケ属 1
27	<i>Cortinarius</i> sp. 2	フウセンタケ属 2
28	<i>Cortinarius</i> sp. 3	フウセンタケ属 3
29	<i>Cortinarius</i> sp. 4	フウセンタケ属 4
30	<i>Cortinarius</i> sp. 5	フウセンタケ属 5
31	<i>Cortinarius</i> sp. 6	フウセンタケ属 6
32	<i>Cortinarius</i> sp. 7	フウセンタケ属 7
33	<i>Suillus luteus</i>	スメリイグチ
34	<i>Suillus granulatus</i>	チチアワタケ
35	<i>Russula emetica</i>	ドクベニタケ
36	<i>Russula</i> sp.	ベニタケ属
37	<i>Lactarius quietus</i>	チョウジチチタケ
38	<i>Lactarius hatutake</i>	ハツタケ
39	<i>Lactarius chrysorrheus</i>	キチチタケ
40	<i>Daedaleopsis purpurea</i>	ミイロアミタケ
41	<i>Fomitopsis pinicola</i>	ツガサルノコシカケ

第351回例会 宝が池菌類観察会

日 時：1997年10月19日（日）晴

43名参加

第7回きのこ展（10月17-19日）開催中の観察会の為、採集したキノコを、会場の野生のキノコのコーナーに出品した。そのために、参加の皆さんには、採集時間を短縮したり、同定時間を早めたりと、ご協力頂き誠にありがとうございました。乾燥続きで心配されたキノコも、熱心な43名の参加者のお陰で、58種（内不明種13）もの採集があった。また、前日から「きのこ展」にお越しになっていた、新潟県の長岡技術科学大学教授・工学博士の、宮内信之助先生も参加になり、同定のご協力と、ご専門のフウセンタケの見分け方についての、ミニ講義もお願いして、有意義な一時を過ごした。当日は、池の周りを6時間も走り続ける、第13回スーパーウルトラマラソン大会も開催され、全国から201名のエントリーがあり、秋晴れの宝が池は、大賑わいであった。

（佐野修治・小寺祐三）

42	<i>Phellinus gilvoides</i>	ネンドタケモドキ
43	<i>Gloeophyllum sepiarium</i>	キカイガラタケ
44	<i>Heterochaete delicata</i>	オシロイタケ
45	<i>Lanopila nipponica</i>	オニフスベ
46	<i>Coriolus versicolor</i>	カワラタケ
47	<i>Perenniporia ochroleuca</i>	ウズラタケ
48	<i>Microporus flabeliformis</i>	ウチワタケ
49	<i>Lenzites betulinus</i>	カイガラタケ
50	<i>Pynoporus coccineus</i>	ヒイロタケ
51	<i>Geastrum triplex</i>	エリマキツチグリ
52	<i>Lycoperdon pedicellatum</i>	アラゲホコリタケモドキ
53	<i>Lycoperdon perlatum</i>	ホコリタケ
54	<i>Scleroderma reae</i>	コニセシヨウロ
55	<i>Auricularia polytricha</i>	アラゲキクラゲ
56	<i>Exidia glandulosa</i>	ヒメキクラゲ
57		ソウメンタケ属
58	<i>Lycogala epidendrum</i>	マメホコリ

第352回例会 比良山麓（志賀町）菌類観察会

日 時：1997年11月2日（日）

57名参加

場 所：滋賀県滋賀郡志賀町八屋戸
（アカマツ・コナラ林）

今年度の比良山麓の菌類観察会は、去年のげんき村から JR 蓬萊駅近くの石田氏所有の山林に場所を移して実施した。観察地は比良連峰の子女郎峠登山道沿いにあり、眼下に琵琶湖が一望できて非常に見晴らしのいいところであった。

観察会の頃はカラカラの天気が続いていて、観察できたきのこは39種にとどまり、期待されたシモコシ、ムラサキシメジなどの姿はなかった。

参加者は帰り道に、江戸時代に建設されたというヨシ葺きの家を見学し、その美しい佇まいを胸に帰途についた。（佐々木久雄）

採取品リスト

1	<i>Pleurotus pulmonarius</i>	ウスヒラタケ
2	<i>Clitocybe acromelalga?</i>	ドクササコ?
3	<i>Tricholomopsis rutilans?</i>	サマツモドキ?
4	<i>Mycena haematopoda</i>	チシオタケ
5	<i>Mycena</i> sp.	クスギタケ属
6	<i>Strobilurus ohshimae</i>	スギエダタケ
7	<i>Strobilurus stephanocystis</i>	マツカサキノコモドキ
8	<i>Armillariella mellea</i>	ナラタケ
9	<i>Xeromphalina caudicinalis</i>	キチャホウライタケ
10	<i>Xeromphalina campanella</i>	ヒメカバイロタケ
11	<i>Collybia peronata</i>	ワサビカレバタケ
12	<i>Pluteus atricapillus</i>	ウラベニガサ
13	<i>Coprinus micaceus</i>	キララタケ
14	<i>Naematoloma fasciculare</i>	ニガクリタケ
15	<i>Pholiota terrestris</i>	ツチスギタケ
16	<i>Gymnopilus liquiritiae</i>	チャツムタケ
17	<i>Galerina</i> sp.	ケコガサタケ属
18	<i>Entoloma staurosporus</i>	ミイノモミウラモドキ
19	<i>Suillus luteus</i>	スメリイグチ
20	<i>Russula</i> sp.	ベニタケ属
21	<i>Lactarius chrysorrheus</i>	キチチタケ
22	<i>Trametes versicolor</i>	カワラタケ
23	<i>Phellinus gilvus</i>	ネンドタケ
24	<i>Phellinus gilvoides</i>	ネンドタケモドキ
25	<i>Fomitopsis pinicola</i>	ツガサルノコシカケ
26	<i>Oligoporus</i> sp.	オオオシロイタケ属
27	<i>Oligoporus tephroleucus</i>	オシロイタケモドキ
28	<i>Lenzites betulinus</i>	カイガラタケ
29	<i>Trichaptum biforme</i>	ハカワラタケ
30	<i>Trichaptum abietinum</i>	シハイタケ
31	<i>Gloeophyllum sepiarium</i>	キカイガラタケ
32	<i>Pycnoporus coccineus</i>	ヒイロタケ
33	<i>Onnia vallata</i>	アズマタケ
34	<i>Perenniporia fraxinea</i>	ウズラタケ
35	<i>Clavicornia pyxidata</i>	フサヒメホウキタケ
36	<i>Neofectia vitellina</i>	ヒメカムリタケ
37	<i>Astraeus hygrometricus</i>	ツチグリ
38	<i>Isaria sinclairii</i>	ハナサナギタケ
39	<i>Lycogala epidendrum</i>	マメホコリ

関西菌類談話会 1998年度総会（第354回例会）報告

第354回例会，1998年度総会は，下記の報告事項及び審議事項について討議を行ない，全議案とも承認された。

日 時 1998年2月7日（土）13：30～14：30

場 所 京大会館210号室

議事案

A：報告事項

（1）事務局からの報告（下野）

1. 1997年度の会員数の動向（1998年1月15日現在）

2. 役員会の実施状況

1997年度に，臨時を含めて役員会を4回行った。

— 略 —

（2）1997年度事業報告

観察会（丸本），シンポジウム（岩瀬），

きのこ展（吉見），会報編集（佐々木）。

第343回例会 1997年2月1日（土）総会および講演会

場 所：京都府立大学 視聴覚教室

講演会：

1) ウロコケンボウズタケについて（吉見昭一氏）

2) 寄せられたナガエノスギタケ・アシナガヌメリ発生情報のその後（相良直彦氏）

3) キノコ屋90年親子二代の歩み（森本 肇氏）

参加者：42名

第344回例会 5月11日（日）第22回分類学講座

内 容：きのこ分類学入門

—きのこの採集から標本作成まで—

場 所：生物環境研究所

講 師：吹春俊光氏（千葉県立中央博物館）

参加者：37名

第345回例会 6月14日（土）シンポジウム

テーマ：きのこ分類学の最前線

場 所：生物環境研究所

演 題：

1) 「分子生物学的手法のきのこ分類学への応用（PCR-RFLP を用いたベニタケ属近縁種の識別）」（下野義人氏）

2) 「コウヤクタケ科の分類」（前川二郎氏）

座 長：田中千尋氏

参加者：51名

第354回例会 1998年2月7日（土）総会

一般講演：オオセミタケの地中柄とその分生子世代の外見（杉山信夫氏）

会長講演：日本産幻覚性きのこについて

（横山和正氏）

日本菌学会教育文化賞受賞記念講演：

菌学教育の普及をはかる（吉見昭一氏）

（3）1997年度会計報告（北岸）

関西菌類談話会1997年度決算報告

[収入の部]

（単位：円）

	予 算	決 算	増 減
繰越金	739,411	739,411	0
会費収入	1,000,000	1,003,500	3,500
会場収入	20,000	35,597	15,597
雑収入	10,000	36,965	26,965
収入合計	1,769,411	1,815,473	46,062

[支出の部]

通信費	600,000	391,804	208,196
事務費（一般）	100,000	89,493	10,507
事務費（人件費）	30,000	24,800	5,200
会場費	30,000	0	30,000
会議費	50,000	40,820	9,180
印刷コピー代	50,000	51,661	-1,661
謝礼	50,000	30,000	20,000
会報印刷費	450,000	0	450,000
会報刊行諸経費	50,000	3,807	46,193
振替手数料	2,000	1,265	735
調査費	50,000	0	50,000
雑支出	10,000	0	10,000
事業準備金	100,000	100,000	0
予備費	27,411	35,151	-7,740
名簿印刷費	70,000	69,300	700
特別事業費	100,000	99,303	697
支出合計	1,769,411	937,404	
差引残高	0	878,069	

繰越

878,069

別途に事業準備金として，1,404,000の定額貯金

（4）1997年度会計監査報告（監査委員）

B：審議事項

（1）1998年度事業計画

行事計画

観察会（丸本），シンポジウム等（岩瀬），

編集計画（佐々木）。

(2) 1998年度会計予算(北岸)

関西菌類談話会1998年度予算

[収入の部]

(単位:円)

	97年度予算	98年度予算	備 考
繰越金	739,411	878,069	
会費収入	1,000,000	1,000,000	
会場収入	20,000	20,000	
雑収入	10,000	10,000	
収入合計	1,769,411	1,908,069	

[支出の部]

通信費	600,000	600,000	
事務費(一般)	100,000	100,000	
事務費(人件費)	30,000	30,000	
会場費	30,000	50,000	

会議費	50,000	50,000
印刷コピー代	50,000	60,000
謝礼	50,000	70,000
会報印刷費	450,000	600,000
会報刊行諸経費	50,000	30,000
振替手数料	2,000	3,000
調査費	50,000	50,000
雑支出	10,000	0
事業準備金	100,000	100,000
予備費	27,411	15,069
名簿印刷費	70,000	0
特別事業費	100,000	150,000

支出合計	1,769,411	1,908,069
差引残高	0	0

関西菌類談話会会報投稿案内

1. 投稿は原則として本会会員に限ります。
2. 原稿の採否、掲載の順序は編集委員会の決定にお任せ下さい。
3. 編集委員会は、著者の原稿中の字句、表、図、写真などのスタイルの統一や変更を求めることがあります。文章の用法上、あるいは、文法上の誤り、その他の修正は編集委員会にお任せください。
4. 原稿には表題、著者名、本文の他に必要なら引用文献(あるいは参考文献)をあげてください。
5. 別紙に著者名、連絡先、住所、電話番号を書いて添付して下さい。
6. 著者校正は初校だけとし、2日以内に原稿正本とともに速達郵便で返送してください。
7. 掲載された原稿はお返しませんが、図・写真に限り著者校正のときにお返しします。
8. 写真製版料実費は著者の負担とします。
9. 原稿は会報編集長宛にお送りください。

～皆様の投稿をお待ちしております～

- ◇ かびやきのこに関する記事、図、本誌に関するご意見などをお寄せください。
- ◇ 図は黒インクで、少し大きめ(刷り上がりの約1.5倍)にお書きください。(ボールペンは不可です)
- ◇ 原稿の分量は400字づめ原稿用紙4～5枚程度としますが、1枚でも半分でも結構です。
- ◇ 写真の掲載を希望される方は、編集委員長におたずねください。
- ◇ 原稿宛て先

〒521-1222 滋賀県神崎郡能登川町大字佐野336-16

関西菌類談話会会報編集委員長

佐々木久雄

TEL. 0748-42-2975

編集委員: 岩瀬 剛二, 鈴木 雄二, 田中 千尋
橋屋 誠, 松本 靖恵, 森本 繁雄
佐野 修治 (順不同)

表紙によせて

多孔菌科アイカワタケ属 ヒラフスベ *Laetiporus versisporus* (Lloyd) Imaz.

沢山のハチにいやと云うほど刺された丸坊主頭!...そんな風にみえませんか?色とりどりの奇妙奇天烈な姿や生き方を観察していると「きのこ」が哲学者のように思えて、無言の教える時があります。ファインダーを通して、きのこの吐息が伝わればシャッターチャンス!姿形の奇麗なきのこは一味違う、苦みのあるきのこだと思っています。日本三大祭りのひとつ、「祇園祭」巡行の日に撮影した真夏のワンカット。

MINOLTA X-7・MD 35～70 mm・F 3.5 1994年7月17日 京都御苑 京都御所西側付近 F 16・オート・1秒 (佐野修治)

関西菌類談話会会報 No. 22

1999年7月1日 印刷

1999年7月1日 発行

編 集 関西菌類談話会会報編集委員会

発 行 関西菌類談話会

発行所 関西菌類談話会

事務局 〒573-0017 枚方市印田町35-14

TEL. 0720-47-1386

下野 義人

郵便振替口座 00950-0-83129

印刷所 中西印刷株式会社

〒602-8048 京都市上京区下立売通小川東入る